

平成28年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立豊郷中央 小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成28年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成28年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A 115人 国語B 115人

② 算数A 115人 算数B 115人

5 留意事項

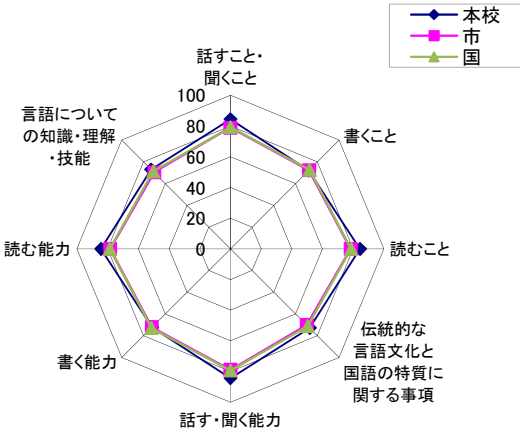
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立豊郷中央小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

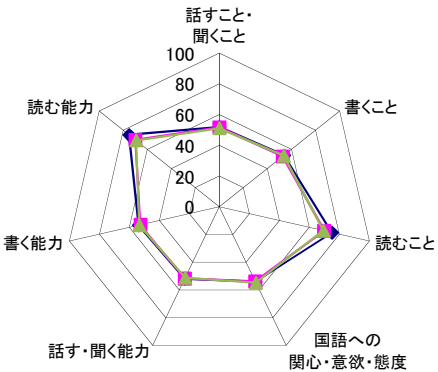
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	84.3	78.8	79.2
	書くこと	72.2	72.4	72.8
	読むこと	84.3	78.3	78.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	73.0	70.3	71.1
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	84.3	78.8	79.2
	書く能力	72.2	72.4	72.8
	読む能力	84.3	78.3	78.5
	言語についての知識・理解・技能	73.0	70.3	71.1



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	51.9	51.7	51.1
	書くこと	53.8	52.7	53.4
	読むこと	75.1	69.9	69.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	53.9	53.8	54.7
	話す・聞く能力	51.9	51.7	51.1
	書く能力	53.8	52.7	53.4
	読む能力	75.1	69.9	69.3
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

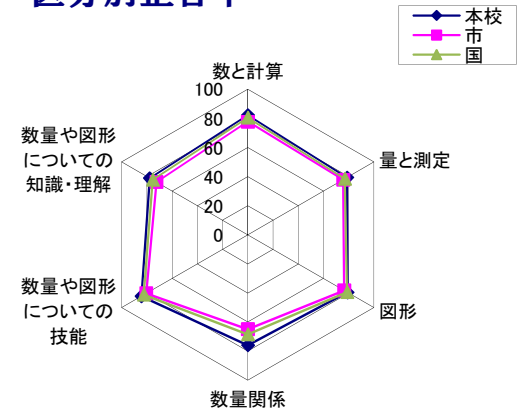
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○国語A・Bともに、話し合いの流れや話し手の意図を捉えて整理することについては、全国平均点を3～4点以上回っており、聞くことに関しては概ね良好な状況と言える。 ●「話すこと・聞くこと」の設問のうち、全国平均を上回ったものは、選択式の設問のみとなっている。話の流れや相手の意図を理解した上で、何をどのように話すか、表現する力に課題が見られる。	・聞くことに関しては内容を捉えることは概ね定着しているが、話すことに関しては課題が見られる。説明や紹介をするときに便利な言葉など、話す内容のモデルを示して、自信をもって話ができるよう準備をさせるなど配慮をする。他教科・領域でも、自分の意見や思いを発表し合う機会を多く取り入れていく。
書くこと	○表やグラフなどの資料を基に、分かったことや自分の考えを書くことは、全国平均をわずかに上回る結果となった。 ●正答率ではわずかに全国平均点を上回っている設問は多いが、「書くこと」の無回答率は、他の区分の設問と比較して高い。	・書くことに関して抵抗を感じる児童が多いことを考慮し、文章の例や書き方の決まりを示し、短い文章を書く経験を積ませ、徐々に書くことへの抵抗感をやわらげていく。他教科・領域との関連を図り、学習内容の説明やまとめを書くなど目的を明確にして書く活動を意図的に取り入れていく。
読むこと	○「目的に応じて、複数の資料を選んで読む」ことに関しては、正答率が88.7%と高い。文章から目的を理解して関連のある資料を選択することができていると言える。 ●文章の内容や要旨を理解した上で、自分の考えをもつという点に課題がある。	・さらに力を高めるために、さまざまな種類の本に触れるなど、読書の習慣化を図る。単元を見通し、目的をもって読み進められるような活動や展開を設定する。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○5・6年生の漢字の読み書きについては、全国平均点を上回っているものが多く、概ね定着している。 ●漢字の書きについては送り仮名のあるものはやや正答率が下がる傾向にある。 ●3・4年次の学習内容であるローマ字については、全国平均を上回っているものの、全体的に正答率が高いとは言えない。	・過去に学習した漢字を忘れがちなので、学年の漢字の練習の他に既習学年の漢字の復習を定期的に位置付ける。また、国語の学習だけでなく生活の中で、既習の漢字を必ず使うことを習慣化させる。宿題や自主学習でも継続的に漢字の練習に取り組みせていく。ローマ字に関しては中学校英語のアルファベットにつながる重要な部分と捉え、意図的に復習をしていく。

宇都宮市立豊郷中央小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

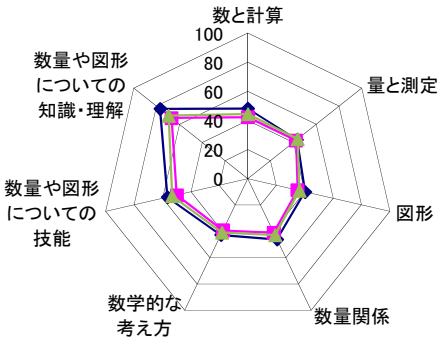
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	82.2	77.7	80.5
	量と測定	78.7	75.6	77.0
	図形	79.1	76.5	78.8
	数量関係	75.9	65.0	68.5
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	84.5	80.6	82.5
	数量や図形についての知識・理解	77.8	72.5	75.4



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	48.3	42.3	44.4
	量と測定	43.1	42.3	43.7
	図形	40.3	35.0	36.3
	数量関係	46.2	41.1	42.9
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	42.7	39.3	40.9
	数量や図形についての技能	56.5	50.0	53.3
	数量や図形についての知識・理解	77.0	67.0	69.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○A・Bとも本校の平均正答率は、市・国の平均正答率を上回っている。また繰り下がりのある減法の計算や不等号の理解に関する問題の平均正答率は94.8%と高い。 ●算数Bでは、示された式の中の数値の意味を理解し、それを記述する問題の正答率が低い。	・示された情報を基に説明する学習では、図や数直線等を用いて考えを表現する活動を意図的に行い、必要な条件を満たして説明する力を育てるようにする。
量と測定	○A・の本校平均正答率は、市・国の平均正答率を上回っている。また三角形の底辺と高さの関係についての問題の平均正答率は87.8%と高い。 ●算数Bでは、面積の変形についての記述問題の正答率が低い。	・自分が導いた答えを順序立てて論理的に説明することができるよう、ノートにまとめたり、グループ学習で学び合ったりする機会を設ける。
図形	○A・Bとも本校の平均正答率は、市・国の平均正答率を上回っている。また図形の構成や正方形に内接する円の問題の平均正答率は85.2%と高い。 ●算数Bでは、図形を構成する角の大きさを基に、四角形を並べてできる形を判断する問題の正答率が低い。	・図形の性質や知識の活用においては、示された情報の中から必要な情報がどれなのか判断し、問題解決できるよう指導する。 ・日常生活の中で図形の性質を活用し処理できる場面を意識的に設定する。
数量関係	○A・Bとも本校の平均正答率は、市・国の平均正答率を上回っている。また場面を適切に読み取り、全体の人数を求める式に表す問題の平均正答率は87.0%と高い。 ●算数Bでは、単位量当たりの大きさに関する問題の正答率が低い。	・比較量と割合から基準量を求める問題では、問題場面を速やかに理解し、何を求めるのかが分かるように、類題に多く取り組めるようにする。

宇都宮市立豊郷中央小学校第6学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○学校で友達と会うのは楽しいと思っている児童の割合が96%、友達の意見などを最後まで聞くことができる児童の割合が93%と、全体的に児童は、友達と良好なコミュニケーションをとっていると考えられる。

○達成感を味わったことがある児童の割合が98%、チャレンジ精神をもつ児童の割合が86%であり、何事にも意欲的に取り組む児童が多いと言える。

○学校は楽しいという児童の割合は90%、学級でみんなと協力し何かをやり遂げうれしかったことがあるという児童の割合が92%で、全体的に学校生活に満足していると考えられる。

○学校の決まりを守っているか、いじめは絶対にだめである、友達との約束を守っているかの肯定割合がどの項目も95%以上であり、全体的に規範意識が身に付いていると考えられる。

○国語・算数は好きかの肯定割合は、ともに80%であるが、将来のために役立つかについては、どちらも90%を超えている。国語・算数にやや苦手意識はあるものの、学ぶ必要性を感じている児童が多いと言える。

○家で宿題をやると答えた児童の割合は98%であるが、授業の復習をするかは65%、予習をするかは55%と少し下がる傾向にある。

○毎日朝食を食べている児童の割合が100%、毎日決まった時間に寝たり起きたりしている児童の割合も80%を超え、全体的に規則正しい生活をしていると考えられる。

●友達の前で自分の意見や考えなどを発表することが得意かの肯定割合は41%と低い。人前での発表が苦手な児童が多いということが言える。やはりこれからも学校生活のあらゆる場を活用し、児童に発表の場を与えていくなどの指導を継続していく。

●平日TVゲームなどをどのくらいするかでは、2時間以上と答えた児童の割合が25%であったが、今後も保護者に協力をしてもらいながら、節度をもって行うよう指導をしていく。

●平日学校の授業以外でどのくらい読書をするかでは、30分未満の割合が68%、また、学校図書館や地域の図書館を利用しているかについても、年に数回、ほとんど利用していないを合わせた割合が64%となり、読書の習慣が身に付いていないと言える。これからも読書の必要性を話したり、児童向けの本を紹介したりして、保護者とも協力をしながら、読書の習慣が身に付くように指導を継続していく。